

サイトカインと補体、CRP

—サイトカインは自己免疫疾患、各種炎症性疾患、変性疾患の原因?—

<https://l-hospitalier.github.io>

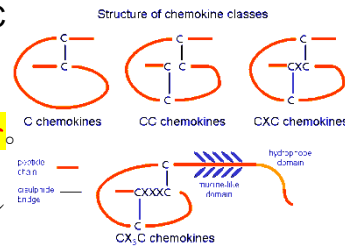
2019.3

感染対策の基礎知識

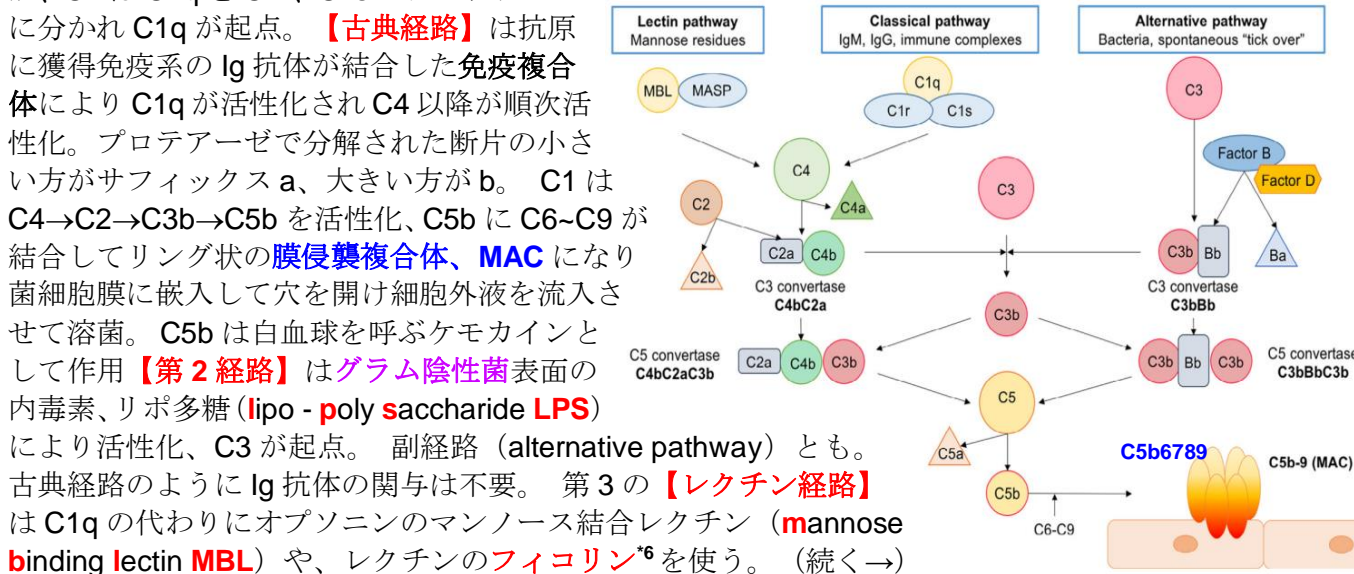
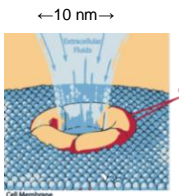
#180

【**サイトカイン**】は主に白血球が産生する抗体以外の蛋白質。細胞はウイルスや細菌感染による刺激や他の細胞の遊離するサイトカインに反応して生理活性蛋白を分泌する。感染に対する細胞間ネットワークの情報交換の性格が強く、微量で特異的な作用を持つので医薬品としての用途が期待される。サイトカインは細胞種によりリンフォカイン（リンパ球）、モノカイン（単球）、インターロイキン（白血球間）などと呼ばれたが、分子量2万前後で自分自身（オートクリン）や他の細胞（パラクリン）を制御する。細菌感染時にTh2細胞（CD4⁺のヘルパーT細胞）がインターロイキン6（IL-6）を分泌し、**IL-6**は肝細胞に作用して急性期蛋白を産生。サイトカインには①**インターロイキン**（IL-1~24）②**インターフェロン**（IFN- α , β , γ ）③**腫瘍壊死因子**（TNF- α , β ）④各種**コロニー刺激因子**（G-, GM-CSF^{*1}）⑤増殖因子（EPO, TPO^{*2}）⑥**ケモカイン**（**chemotactic cytokine** 走化性サイトカイン、白血球遊走により炎症形成に関与、**IL-8**が最初に発見された）がある。ケモカインは構造からC、CC、CXC、CX3C型に分類される（右図）【**急性期蛋白**】にはCRP^{*3}（**C-reactive protein**）やSAP（**Serum amyloid P component**）があり**CRP**、**SAP**、**PTX3**はカルボキシル基末端側にペントラキシンドメインを有する**ペントラキシンファミリー**。

C:シスチン、X:それ以外のアミノ酸、黒の縦線:ジスルフィド(硫黄-硫黄)結合。橙色はペプチド鎖



PTX3は長いアミノ基末端領域を持ち long pentraxin に分類。急性期蛋白は真菌、細菌などを認識、補体系およびオプソニン化でこれらを除く。ウイルスではこの作用は殆どなく、崩壊した自己細胞貪食のためのオプソニン効果でCRP上昇は軽度。CRPと並ぶ急性期蛋白は**MBL/P**（マンナン^{*4}結合レクチン/蛋白 **mannan binding lectin/protein**）だが、日本人を含むアジア人種の3割は1塩基多型による遺伝子変異でMBL欠損（MBL欠損は獲得免疫が未完成の幼児期に黄色ブドウ球菌に易感染性）。日本では臨床検査にCRPがルーチンに行われるが、世界的にはCRP検査は重要でない^{*5}。日本でも**CRP検査不要論**は常に存在。今後は**PTX3**か。【**補体系**】はPAMPsに反応する**TLR**（Toll様受容体）やCD8⁺NK細胞同様**自然（innate）免疫系**の蛋白でC1~C9があり**抗原抗体複合体**で活性化され、熱（56℃、30分）で失活。①**グラム陽性菌**細胞壁表面の**タイコ酸**（**wall teichoic acid, WTA**）に結合してオプソニン化（貪食細胞が食べやすい標識化）②**膜侵襲複合体**（**membrane attack complex MAC**）で細菌破壊（右図）③貪食細胞を抗原の細菌へ接近させる走化性刺激。発見順に1~9あるが、C1はC1qとC1r、C1sのプロテアーゼに分離C1qが起点。【**古典経路**】は抗原に獲得免疫系のIg抗体が結合した**免疫複合体**によりC1qが活性化されC4以降が順次活性化。プロテアーゼで分解された断片の小さい方がサフィックスa、大きい方がb。C1はC4→C2→C3b→C5bを活性化、C5bにC6~C9が結合してリング状の**膜侵襲複合体、MAC**になり菌細胞膜に嵌入して穴を開け細胞外液を流入させて溶菌。C5bは白血球を呼ぶケモカインとして作用【**第2経路**】は**グラム陰性菌**表面の内毒素、リポ多糖（**lipo-poly saccharide LPS**）により活性化、C3が起点。副経路（**alternative pathway**）とも。古典経路のようにIg抗体の関与は不要。第3の【**レクチン経路**】はC1qの代わりにオプソニンのマンノース結合レクチン（**mannose binding lectin MBL**）や、レクチンの**フィコリン**^{*6}を使う。（続く→）



^{*1}Granulocyte/Macrophage colony stimulation factor ^{*2}EP:エリスロポエチン、TPO:トロンボポエチン/チモポエチン thymopoietin :T細胞増殖因子 ^{*3}CRPは肺炎球菌莢膜（capsule）と沈降反応を示す蛋白として発見。ショート・ペントラキシン。IL-6を介するCRPよりTNFやLPSで直接誘導されるロング・ペントラキシンPTX3が鋭敏な炎症指標^{*4} ^{*4}MBL:マンナン結合レクチン。マンナンはマンノース（糖）のポリマー。レクチンは糖鎖と結合する酵素や抗体以外の蛋白の総称 ^{*5}CRPはハリソン5 p786にプロカルシトニン、SAPとともに記載。 ^{*6}フィコリン(ficolin)もレクチン、単量体35 kDa。コラーゲン様とフィブリノーゲン様ドメインを持ちヒトで3種、マウスで2種。